

■ 草津市都市計画マスタープラン 【国の分析ルーツを用いた都市構造の分析】

(1)都市モニタリングシートによる草津市の強み・弱みの分析

・国土交通省が公開する「都市モニタリングシート」をもとに、類似都市との比較を行い、本市の強み・弱みを確認しました。
・評価にあたっては、6つの分野(①生活利便性、②健康・福祉、③安全・安心、④地域経済、⑤行政運営、⑥エネルギー・低炭素)それぞれにおける各指標をもとに分析を行いました。

⑤行政運営

・市民一人当たりの公共施設等に係る費用は他都市よりも低いことや、財政力指数が優れた状況です。
・一方で、平成25年から27年での開発許可面積について、「市街化調整区域÷市街化区域」の値が、同類都市と比較して高く、市街化調整区域での開発割合が高いことが伺えます。

⑥エネルギー・低炭素

・自動車CO2排出量が低く、環境への負荷が低い状況が伺えます。

①生活利便性

・全ての指標について同類都市(人口10~40万人)よりも優れており、各都市機能や公共交通が利用しやすく、全市的な生活利便性は高いことが言え、都市構造として一定のコンパクト性はあることが伺えます。

④地域経済

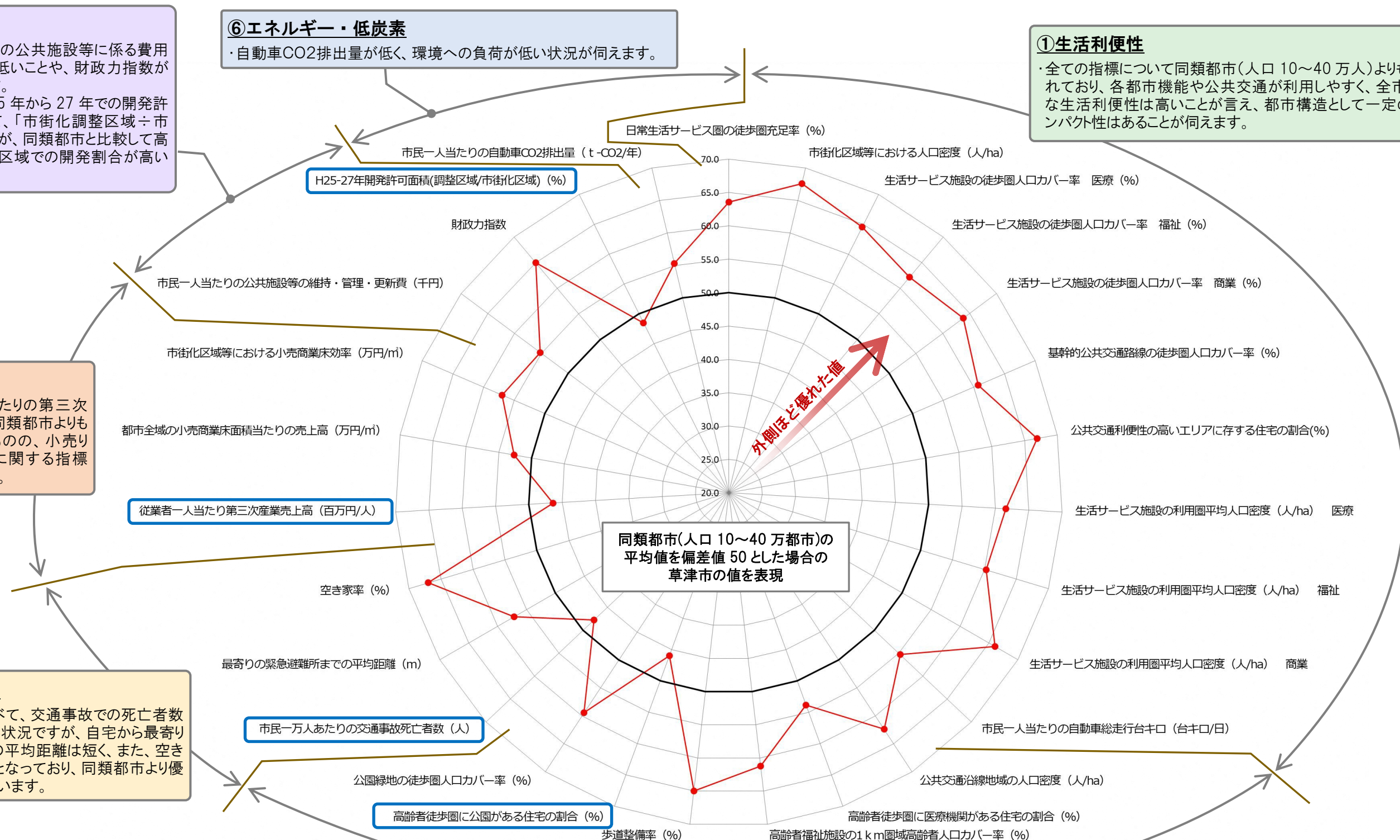
・従業者一人当たりの第三次産業売上高は同類都市よりもわずかに劣るものの、小売り商業の売上げに関する指標は優れています。

③安全・安心

・同類都市と比べて、交通事故での死者数がわずかに劣る状況ですが、自宅から最寄りの避難所までの平均距離は短く、また、空き家率は低い値となっており、同類都市より優れた値となっています。

②健康・福祉

・高齢者人口カバー率は高く、同類都市と比較して、高齢者の人口分布に即した医療・福祉施設の立地がなされていることが伺えます。
・一方で、高齢者の健康増進に寄与する自宅から身近な公園立地については、やや劣る結果となっています。



偏差値50を下回っている項目 (同類都市の平均に比べて劣っている項目)

出典:国土交通省「都市モニタリングシート(H29年版)」を基に作成

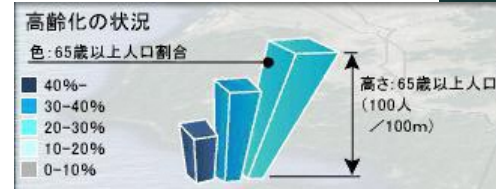
(2)都市構造の見える化ツールの活用によるデータの見える化

・都市構造の見える化ツールでは、マップ上にて、500mメッシュで視覚的に理解しやすい様にデータが整理されます。以下、主な草津市の状況を表現した内容です。

【高齢化の状況】

- ◇高齢者数が多い箇所(高さで表現)は概ね市内の中央部の鉄道沿線に広がっています。
- ◇一方で、市内の西側の市街化調整区域付近では、高齢者数は多くないものの、高齢化率(色で表現)が高い箇所が多くを占める状況です。

市内の西側の市街化調整区域付近では
高齢者数は多くないが高齢化率が高い

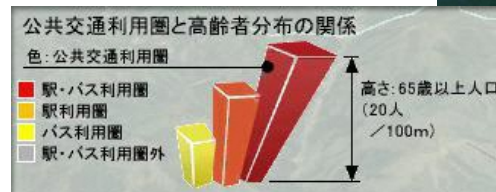


出典: 2010年国勢調査

【公共交通利用圏と高齢者分布の関係】

- ◇高齢者数(高さで表現)が多い箇所では、駅・バスもしくはバスの徒歩利用圏(色で表現)が多い状況ですが、市内の縁辺部において、わずかな箇所ではありますが、高齢者数が一定数いる箇所でも公共交通の徒歩利用圏外が存在しています。

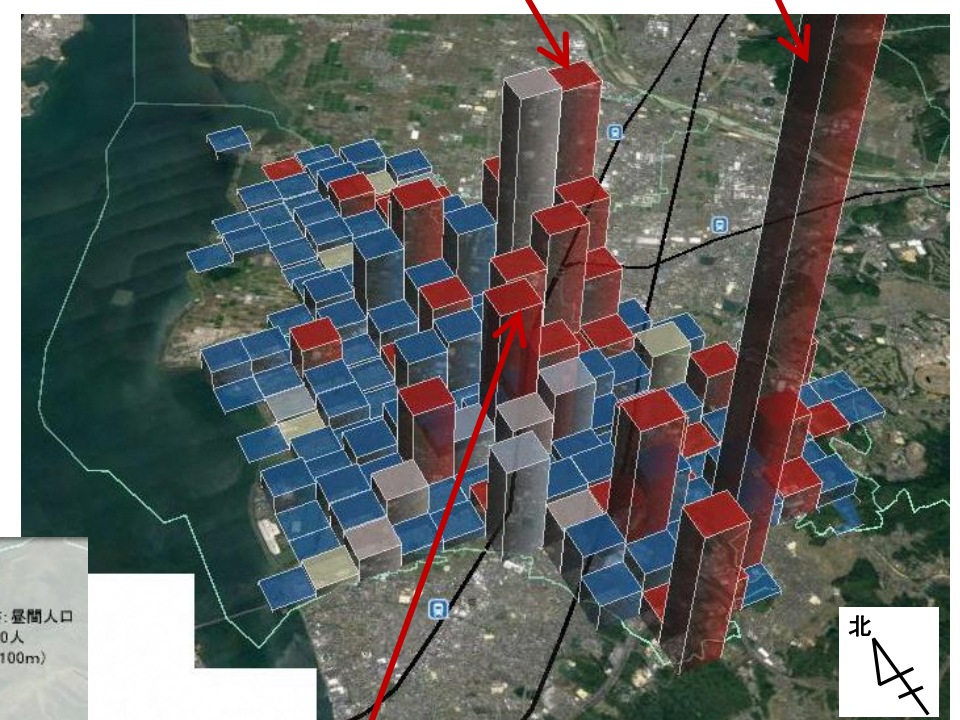
わずかな箇所であるが、市内には高齢者数が一定数いる場所で公共交通の徒歩利用圏外がある



出典: 2010年国勢調査、2010年時点交通路線網

【昼夜間の人口比】

- ◇市内の昼間人口(高さで表現)は、立命館大学が立地する箇所では圧倒的に多く、次いで、草津駅周辺、南草津駅周辺等の商業施設等が集積する箇所でも昼間人口及び昼夜間人口比率(色で表現)が高い状況です。
- ◇また、郊外部の大規模工場や滋賀医科大学等が立地する箇所でもスポット的に高い状況です。



(JR草津駅周辺)
昼間人口: 4,307人
昼夜間人口比率: 191%

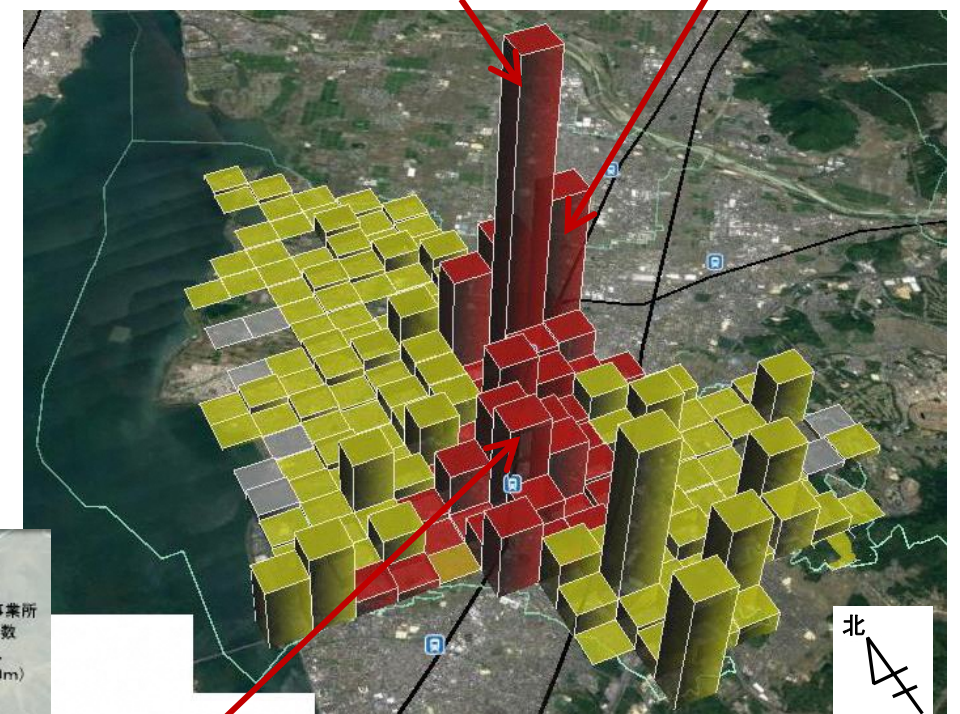
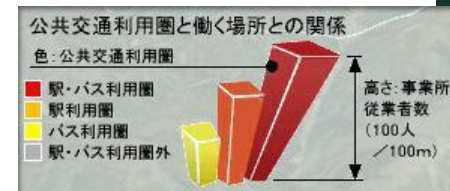
(立命館大学周辺)
昼間人口: 17,969人
昼夜間人口比率: 1766%

(JR南草津駅周辺)
昼間人口: 2,795人
昼夜間人口比率: 155%

出典: 2000年国勢調査

【公共交通利用圏と働く場所の関係】

- ◇市内の事業所従業員数(高さで表現)は、草津駅西側及び東側の多数の商業施設等が集積した箇所でも高い状況です。
- ◇郊外部の大規模工場や滋賀医科大学等が立地した箇所でも従業員数は高い状況ですが、公共交通利用圏(色で表現)はバス利用のみとなっています。



(JR草津駅西側)
事業所従業員数: 5,583人

(JR草津駅東側)
事業所従業員数: 3,161人

(JR南草津駅周辺)
事業所従業員数: 1,848人
出典: 2012年経済センサス、2010年時点交通路線網